

遭わない、加害者に間違われないために、本人の会、ワークショップなどを開催し本人の自立する力、エンパワメントをサポートする必要があり、本人の生活基盤を支えるためにも、地域での理解がとても重要であることをお話ししておられました。

地域の理解を得るといってお話の中で、「全員にわかってもらえなくても、十人のうち一人にわかってもらえればいい、その人数を増やしていければいい、理解してもらえよう努力をすることが大切である。」という言葉が心に残っています。今後、育成会というネットワークの強みを生かし、より一層ネットワークを広げ、本人を親だけではなく、さまざまな人たちとともに支えていく。本人の自立する力が弱いならば、弱い力を補完していく、親亡き後に安心して暮らせる仕組みづくりへの積極的な活動に期待しているとお話

していただきました。

講演の後、日本ヘレンケラー財団理事長西川佳夫様より乾杯のご発声いただき、美味しい食事とお酒をいただきながら、普段お話しすることがない方たちとも、楽しくお話をさせていただきました。

支援者として勤めだして十数年が経ちます。その頃から比べると、自分自身は結婚し、子どもを授かり、生活が一変しました。障害者施策に関していうと、措置費から支援費制度、障害者自立支援法と大きく移り変わっています。また前回衆院選での政権交代により自立支援法は廃案になり、新しいものができることになっていくようです。

恥ずかしく思います。

辻川様もお話しておられましたが、当事者の気持ち、思いを伝えるということ、当事者の参画がより一層重要になってくると考えられます。そのためにも自分自身支援者としてより一層の研鑽と、人として成長ができるよう努力していかなければと再確認させられました。最後になりましたが、KKRホテル大阪従業員の皆様方、当日は心温かいおもてなしをしていただきありがとうございました。

去る一月十日(日)、大阪キヤッスルホテルにおいて「大阪市知的障害者育成会二〇一〇年新成人を祝うつどい開催」が

二〇一〇年
大阪市知的障害者育成会
新成人を祝うつどい開催

方が集っています。

第一部の式典では、笹野井理事長による主催者挨拶の後、大阪市長、大阪市教育委員会教育長のご祝辞を賜りました。祝電披露の後、新成人の方のご紹介、代表者による誓いの言葉など約三十分にあたる式典ですが、新成人の方は舞台上の座席にて緊張した面持ちながら、心も新たにしていたのではないのでしょうか。

式典での緊張が解け、新成人の方もホッと一息ついたところで、第二部のアトラクションに移りました。まず「スマイル」の皆様による大正琴による演奏があり、二曲聴いて場が和みはじめると、三曲目からは進行の呼びかけに合せて、前に出て歌う方や、鈴を腕につけながらリズムを取る方など大いに盛り上がりました。その後はマジックショーです。「不思議塾」のサミ

に不思議なマジックの数々で、すぐ近くに陣取って眺めていた新成人の方々も「何でだろう?」と首をひねっておられました。



さて、成人式は言うまでもなく、人生の上での一つの大きな区切りであり、またスタート地点でもあります。それぞれに抱える課題と、これまでも同様あるいはそれ以上に向き合いつつ、自分の夢に向かって一歩一歩進んでいくのでしょうか。親子揃って、あるいは関係する方々が、このひとつの区切りに、寄せられている多くのお祝いのメッセージからもうかがえます。

当日会場には、晴れやかな表情をした十八名の新成人の

きたり輪をつないだりする正